

プリムラ・オブコニカのプリミンフリー品種の開花・生育特性

吉岡孝行

(園芸部)

【目的】

近年、新しく発売になっているプリムラ・オブコニカ (*Primula obconica* Hance) のプリミンフリー種は、プリミン含有の有無をめくり生産現場を中心に混乱を生じている。そこで、こうした不安を解消するためにプリミンフリー種のプリミン含有の有無を確認すると共に、プリミンフリー新品種がもつ開花及び生育特性を明らかにする。

【試験方法】

‘F1プリノー’他の3シリーズから主要なプリミンフリー 21 品種、対照区としてプリミン保有の 22 品種を供試した。2002 年 4 月 1 日、280 穴セルトレイに市販培養土 (メトロミックス 350) を用い、1 穴 1 粒として 50 粒/品種を播種した。最低夜温 15℃に設定、底面給水とした。6 月 3 日、本葉 3~4 枚に生育した品種から順次 3 号ポリポットに鉢上げした。鉢用土は市販培養土 (グッドソイル) と赤土 : 腐葉土 : ピートモス = 5 : 3 : 2 とを体積割合で均等に混ぜ、元肥として過磷酸石灰 5 g/L、マグアンプ K 4 g/L を施した。9 月 12 日、生育が進む品種から 4.5 号プラ鉢に 1 株を定植した。鉢用土は育苗時と同じものを使用し、10 月 2 日と 28 日、プロミックス小粒 3 粒/株を置肥した。温室は 7 月 6 日~9 月 15 日を 50%遮光で管理し、11 月からは最低夜温 14℃に設定して管理した。11 月下旬から、各品種の開花と生育等の調査を行った。

【成果の概要】

1) プリミンフリー種は、各シリーズとも 12 月上旬から開花が始まり、下旬には開花株率が 100% 近くになった。オブコニカの開花特性の一つである開花進行によって発生する花色変化は、プリミンフリー種の各シリーズとも‘ホワイト’を除く全品種で見られた。中でも F1 タッチ・ミー、同ミディシリーズの‘レッド&ホワイトバイカラー’と‘ブルー&ホワイトバイカラー’は明度および彩度とも大きく変化し、開花時の淡紫ピンク (9702) から開花盛期の鮮紫赤 (9707) に、同じく紫白 (8301) から明青味紫 (8305) に、それぞれ花色を変えた。また、同シリーズ‘ボルドーレッド’ (鮮紫ピンク (9504) ~ 鮮紫赤 (9701)) および‘サーモン’ (淡黄ピンク (0702) ~ 明橙赤 (0705)) は、他のシリーズにない暖色系花色のオブコニカとしての新規性が感じられた。

2) 花茎数、花茎長、花柄長および花径とも品種間による差が見られた。花茎長、花柄長および株張り、株高は鉢の形態に与える影響が大きく、その草姿から A、B の 2 タイプに分類することができた。また、‘F1 タッチ・ミー’、‘同ミディ’、‘F1 リブレ’は花茎、株張りなどの大きさから 4.5 ~ 5 号鉢に向き、‘F1 プリノー’は花が大きく、大株に育つことから 5 号以上の鉢物栽培に適すると思われた。

3) このように、プリミンフリー種は年内出荷が可能であり、花色、株の大きさ、草姿など多彩で、極めて高い観賞価値をもつ品種でつくられていることが明らかになった。


表1 プリムラ・オブコニカの開花・生育特性

シリーズ名	品種名	花色		開花株率 (%)	花基数 (本)	花径 (mm)	草姿	
		開花始め	開花盛期					
F ₁ プリノー	ブルー	8003	8005	100	5.0	54.7	A	
	ライトブルー	8002	8004	61.5	5.4	56.0	A	
	ローズ	9204	9507	100	6.4	51.4	B	
	ホワイト	3101	3101	87.5	9.4	56.6	A	
F ₁ リブレ	マゼンタ	9204	9507	100	7.4	47.6	B	
	ライトサーモン	0402	0405	100	7.2	44.0	B	
	ブルー	8003	8005	100	8.0	50.8	A	
	ピンク	9703	9707	85.7	8.6	50.6	A	
	ホワイト	3101	3101	100	10.0	48.5	B	
F ₁ タッチ・ミ	レッド&ホワイトがイター	9702	9707	100	5.3	49.9	A	
	ブルー&ホワイトがイター	8301	8305	100	8.4	50.4	A	
	ボルドーレッド	9504	9707	100	7.0	47.9	B	
	サーモン	0702	0705	80.0	6.8	50.0	B	
	ホワイト	3101	3101	88.9	10.6	52.8	A	
	ピンク	0403	0406	100	5.7	43.4	B	
	ブルー	8003	8005	100	7.2	54.0	A	
	サーモンピンク	0403	0406	100	6.7	46.1	B	
F ₁ タッチ・ミ ・ミディー	ディープブルー	8003	8005	100	6.0	54.0	B	
	レッド&ホワイトがイター	9702	9707	100	6.0	51.3	A	
	ブルー&ホワイトがイター	8301	8305	100	6.8	52.0	A	
	ホワイト	3101	3101	100	6.3	51.4	B	
	F ₁ ジュノー	ブルー	8003	8005	100	4.0	50.0	B
		ブルー&ホワイト	8301	8305	100	7.0	19.1	A
		デープオレンジ	0702	0705	100	9.0	48.7	B
		ライトブルー	8001	8002	57.1	5.0	57.6	A
オレンジ		0702	0705	100	8.0	46.5	B	
ピンク		8902	8904	91.7	7.0	62.3	A	
レッド&ホワイト		9702	9707	100	6.0	50.8	A	
レッドピコティー		9702	9707	100	4.0	55.1	A	
スレットピコティー		0403	0406	83.3	8.0	50.6	A	
ローズ		9503	9506	50	10.0	55.8	B	
ホワイト		3101	3101	0	6.0	56.9	A	
F ₁ クリスタル	オレンジピコティー	0702	0705	100	8.0	50.7	A	
	カーマイン	9204	9207	100	11.0	55.7	A	
	レッド&ホワイト	9702	9707	100	7.0	50.3	A	
	アプリコット	0702	0705	100	7.0	46.0	B	
	ピンク	9203	9206	100	8.0	64.2	A	
	ローズ	9204	9207	100	6.0	57.2	A	
	ラベンダー	8002	8004	100	7.0	59.6	A	
	レッド	0407	9505	62.5	7.0	55.9	B	
	アハト	アハト	9702	9707	100	5.0	49.7	A
	オレンジアハト	オレンジアハト	9702	9704	84.6	5.0	50.4	A
	アグネス	アグネス	8301	8305	100	7.0	55.8	A

1) 調査：2002年12月26日～30日

2) 中央線より上＝プリミンフリー種、中央線より下＝プリミン種を示す。

3) 花色の番号は、日本園芸植物標準色票カラーコード番号を示す。

4) 草姿は、AとBのタイプに分類できる。 A  B 